

*Japan Polymer Technology Co., LTD*

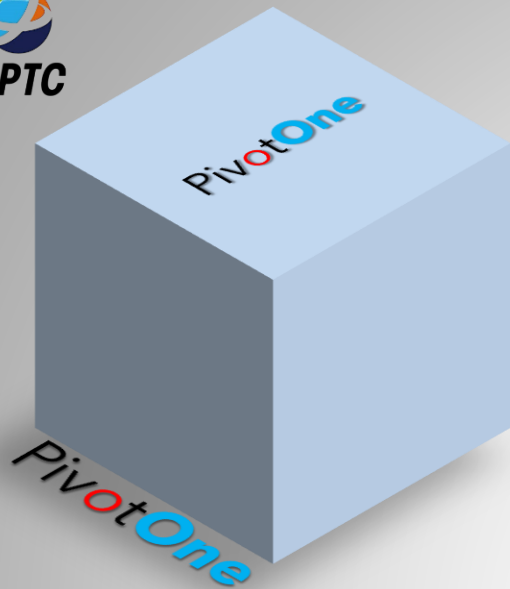
練習用持針器・腹腔鏡手術下縫合練習用製品のパイオニア

**日本高分子技研株式会社**

*Company & Products We Carry*

JPTC Laparoscopic Training Lab that fits in your bag





# PivotOne

ピボットワン



## 世界初 “二刀流” 携帯型ラパロ縫合トレーナー

PivotOneは、世界で唯一、手ブレ矯正トレーニングと通常の縫合トレーニングを1台で行える“二刀流”構造を採用

5つの溝の何れかに鉗子を軽く置くことで手ブレを抑える「手ブレ矯正モード」そして、中央のデバイスホールを用いた「通常のトレーニングモード」に切り替えて行えます。

自宅・医局・出張先など、思い立った時に設置してすぐに練習ができる新しい携帯型ラパロトレーニング体験を提供します。



PivotOne

共同開発者

私がブレ<sup>ワケ</sup>ない理由

それはカバンのなかにある

# PivotOne

(共同開発者紹介)

【共同発明者】

国立大学法人金沢大学

医薬保健研究域医学系 消化管外科学/乳腺外科学

教授 医学博士 稲木紀幸先生

日本外科学会指導医・専門医

日本消化器外科学会指導医・専門医

日本消化器内視鏡学会指導医・専門医

日本内視鏡外科学会技術認定医

他

ご経歴

1997年

金沢大学医学部卒業

2003年

金沢大学大学院修了：医学博士

2004年

ドイツ テュービンゲン大学外科 低侵襲外科部門

2006年

金沢大学大学院医学研究科地域医療学講座

2007年

石川県立中央病院消化器外科

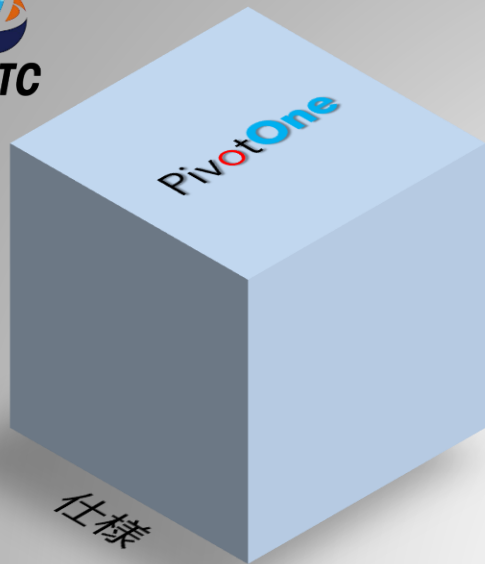
2018年

順天堂大学医学部消化器・低侵襲外科学

2021年

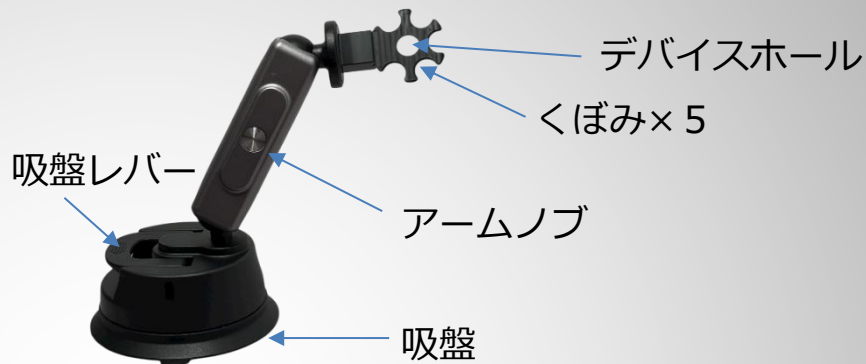
現職





# PivotOne

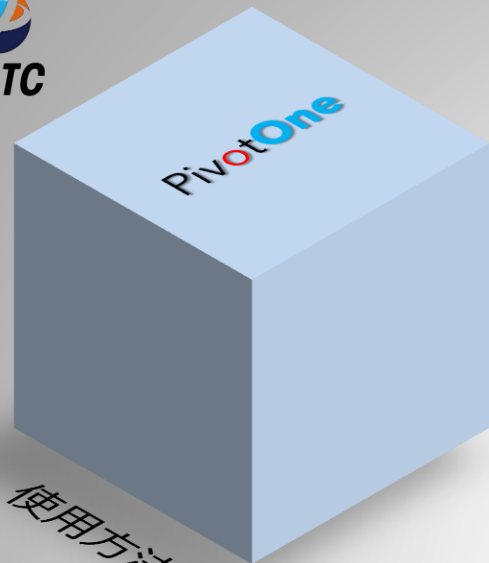
ピボットワン



最大高さ 185mm  
重さ 230g

- ・ 設置場所は吸盤がつく凹凸がない場所でご使用ください。
- ・ 吸盤上部を設置面へ垂直に押しながら吸盤レバーを倒してください。
- ・ デバイスホールの角度が決まったらアームノブを締めてください。
- ・ 吸盤を移動若しくは外す際に、指でレバーを持ち上げる。その際にレバーが強い力で戻るために、アームとレバーの間に挟まれることがあります。

それを回避するために、アームを握りながら、片方の指で吸盤レバーを持ち上げてください。詳細は「**ご注意**」をご参照ください。



くぼみを使う



デバイスホールを使う

参考例として次の3ステップを紹介いたします。時間をかける必要性はなく、日々のトレーニングに加えてください。

### ① 通常の縫合結紮トレーニング (5~10分)

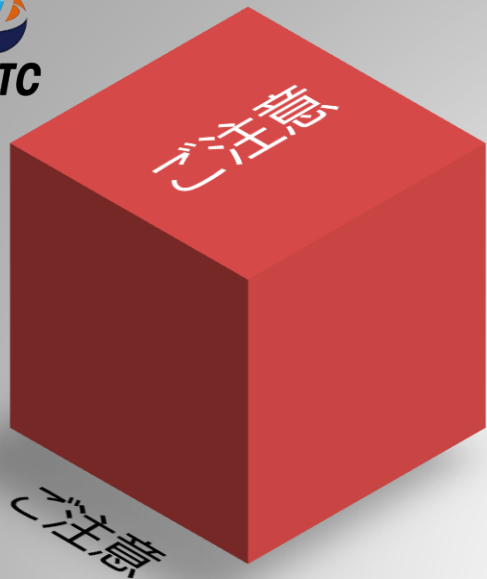
中央のデバイスホールを使用し、通常の縫合結紮操作を行います。現在の自分の操作感覚を把握するステップです。ここで手ブレを感じる場合はすぐにステップ②へ。

### ② 手ブレ矯正トレーニング (5~10分)

PivotOneの円周に配置された「くぼみ」にのひとつに鉗子を軽く押し当てます。くぼみの底に鉗子が触れている感覚を常に意識しながら、「ゆっくり」と縫合操作を行うことがポイントです。意識が途切れると鉗子が外れてしまうため、自然と“安定した操作”を身体が学習します。

### ③ 再度、通常の縫合結紮トレーニング (5分~10分)

再びデバイスホールを使用して縫合結紮を行うと、1回目とは異なる“安定した感覚”に気づくはず。これこそが、手ブレ矯正トレーニングの効果を実感できる瞬間です。



# PivotOne

ピボットワン

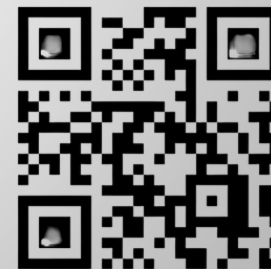


レバーの跳ね返りが強いです。  
レバーを上げるとアームとレバーの間に指が挟まれます。



左図のようにアームをお持ちください。中央図のようにレバーの上に親指を置いて右図のようにレバーを持ち上げると、レバーの跳ね返りの強さが緩和されます。

1. 吸盤を移動若しくは片付ける際には上記「◎」を行ってください。
2. 吸盤は凹凸のない場所でご使用ください。
3. 吸盤やアームが固定されている際は、強引に動かさないようにしてください。からなずレバーやノブを緩めてから行ってください。



Shop